



## 校歌は誰に聞かせるのか？

校長 永留 良隆

私自身、島間小に赴任して1年が経ちました。3月は別れの季節で、校長として初めての卒業式、修了式、離任式を経験しました。4月は出会いの季節で、新任式、始業式、入学式。そして、この1か月の間に一番よく耳にした歌は何か？ それは間違いなく「島間小学校の校歌」です。特に、卒業式の時に目に涙をいっぱいためて声高らかに歌う子供達の姿を、私は一生忘れることはないと思います。

さて、私は小学校1年～3年の3か年間を、西之表市の榕城小で過ごしました。たった3年間、しかも下学年であったのに、校歌を今でも覚えています。「黒潮におう南海の・・・」。歌詞さえあればフルコーラス歌える自信があります。

さらに、私の高校時代は、詰め襟の制服に五分に刈り込んだ坊主頭、黒縁の眼鏡をかけて、どこから見ても昭和の高校生。振り返るとあれから40年近くの月日が流れています。入学した高校では個性のある友人と数多く出会い、今でも連絡を取り合い、昔を懐かしんでいます。現在の自分があるのは、これまでの友人や先生との出会いがあったからだとしみじみ思います。そして時代が過ぎても自然に口ずさめるメロディー。それは母校の校歌です。それは学んだ証でもあると思います。決して歌わされるものではなく、自ら歌うもの、その学校で、その校舎で学んだ者だけが味わえるものです。

ところで、私は日本で一番すてきな校歌を歌える学校を知っています。「緑の松が肩くんで・・・」。子供達にはこれからも大きな声で堂々と胸を張って歌ってほしいと思います。そして、この一年入学式、運動会、卒業式等で歌う校歌は果たして誰に聞かせるのか？ それはきっと将来の自分自身のために歌うのだと私は思っています。

## 子供達ががんばること・・・AKB作戦

4月6日(木)の始業式で子供達に「この1年間、みんなで取り組むこと」を三つ話しました。

1点目は「A・・・あいさつ」です。あいさつにもいろいろな要素があると思います。例えば「きちんと立ち止まってあいさつ」「大きな声であいさつ」

「相手の目を見てあいさつ」・・・。私が子供に呼びかけるのは「ニコリ笑顔であいさつ」です。「ニコリ笑顔であいさつ」で心が通じ合えると思っています。2

点目は「K・・・くつならべ」です。目的は単に見栄えの美しさだけではありません。「ちょっと待てよ。」という思慮深さを子供なりに身に付けてほしいからです。3

点目は「B・・・バリバリそうじ(チョット苦しい～?)」

です。日本の新幹線の清掃・点検作業は、駅を停車するわずか7分で全て終わるそうです。これを「7分間の奇跡」というようですが、是非島間バージョン「島間15分の奇跡」を実践できる学校にしたいと考えています。

## 自分の命は自分で守る・・・交通教室

4月14日(金)3校時に交通教室を実施しました。南種子交番と役場から5名の指導者が来校し、主に横断歩道の渡り方や自転車の乗り方について教えていただきました。言葉や頭で分かるだけでなく行動できることが大切です。家庭でもいろいろな場面を想定して繰り返し体験的に練習させてください。一つしかないかけがえのない大切な命。自分の命は自分で守るという意識をさらに高めてくれることを切に願っています。



【初めての安全教室】

## 特別支援学級(ロケット学級)が新設

どの子も、学習したり生活したりする上で特性があります。得意なこと、苦手なこと・・・一人一人さまざまです。集団で学習するよりも個別にゆっくり学習した方が効果の上がる子。様々なことが気になってじっと学習することが苦手な子。人に自分の気持ちをうまく伝えられない子。

このように支援を必要とする子供のために特別支援学級が本校に新設され、新任の丸田香織先生が担任することになりました。島間の子供達が一層楽しい学校生活を送れるように努めて参ります。

なお、特別支援学級のネーミングは、目標に向かって突き進むロケットをイメージして「ロケット学級」と名付けました。

校長の独り言・・・子供は自分の欲求に向かって夢中になる時に、瞳がキラキラ輝く。年度はじめ、たくさんそのキラキラの風景を目の当たりにした。「『校長先生、お早うございます。』呼称あいさつは島間小のブランド。気持ちのよい朝のスタート。」「朝から校庭で全員リレー。休み時間もみんなよく遊んでいる。まさしく少人数学校ならではの微笑ましい風景。」「集団登下校、給食、掃除で1年生の世話をする高学年生。リーダーの自覚が見えてきたぞ。」「雨や強風の時に、車で送ってもらわないで自力登校する子供達。何とも頼もしい！」他にも素敵な風景がたくさんある。子供達のこれからの成長を楽しみにしたい。

